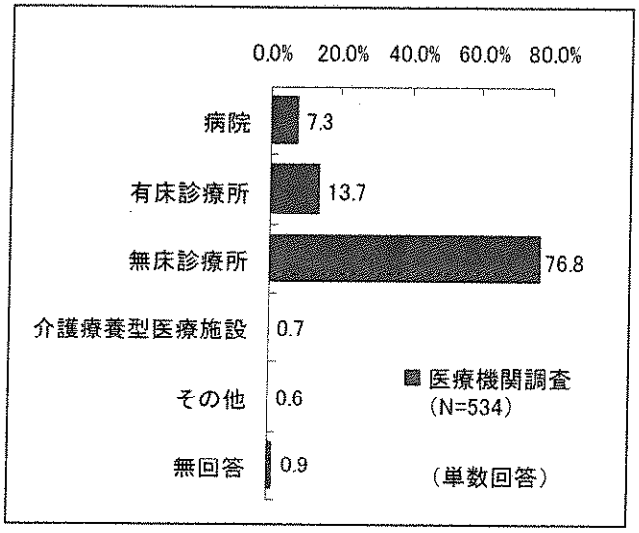
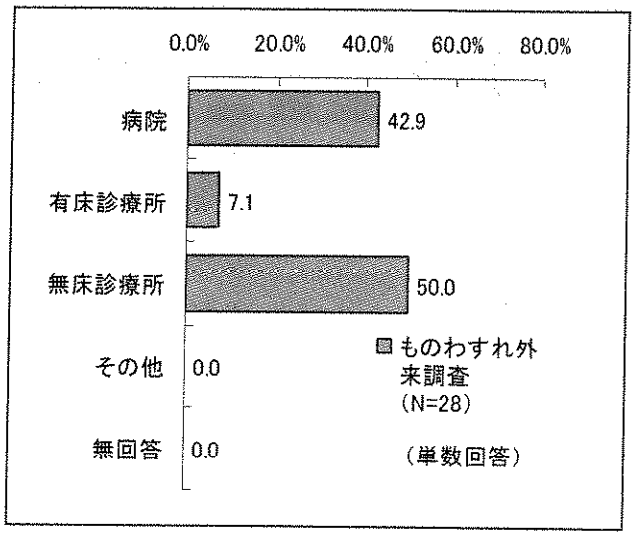
第５章　医療機関用調査／
ものわすれ外来協力医療機関用調査

第５章　医療機関用調査／ものわすれ外来協力医療機関用調査

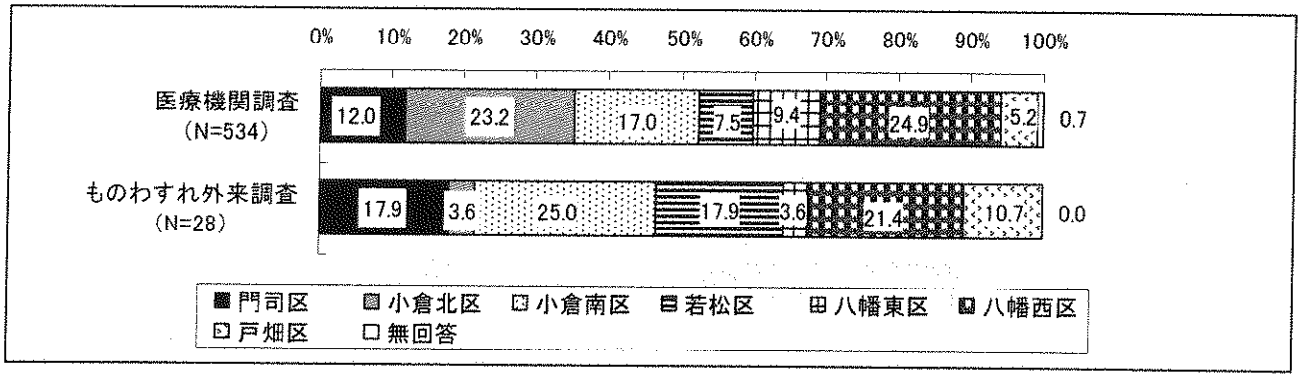
１．　回答機関の基本属性

（1）医療機関等の種別

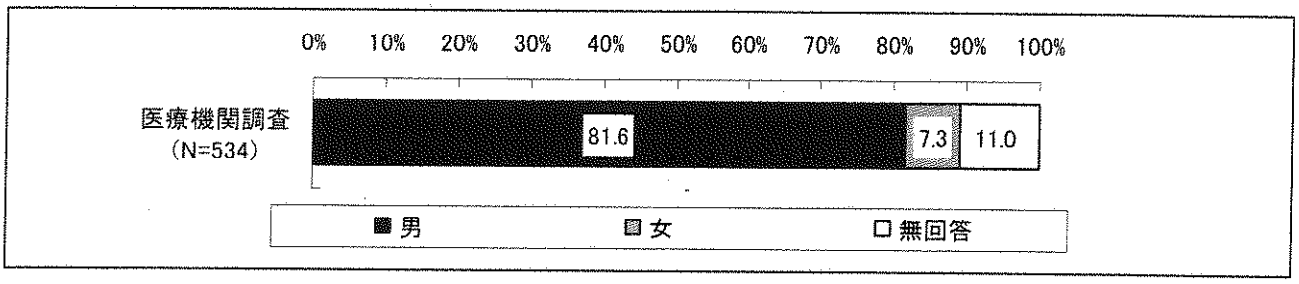




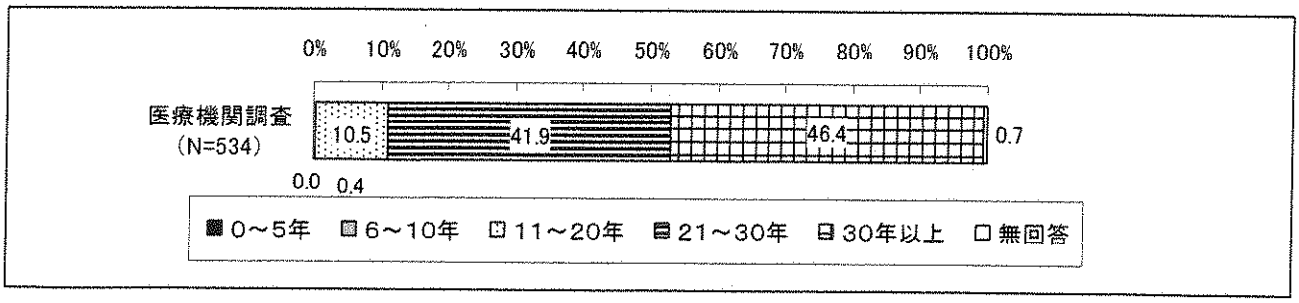
（2）医療機関等の所在地



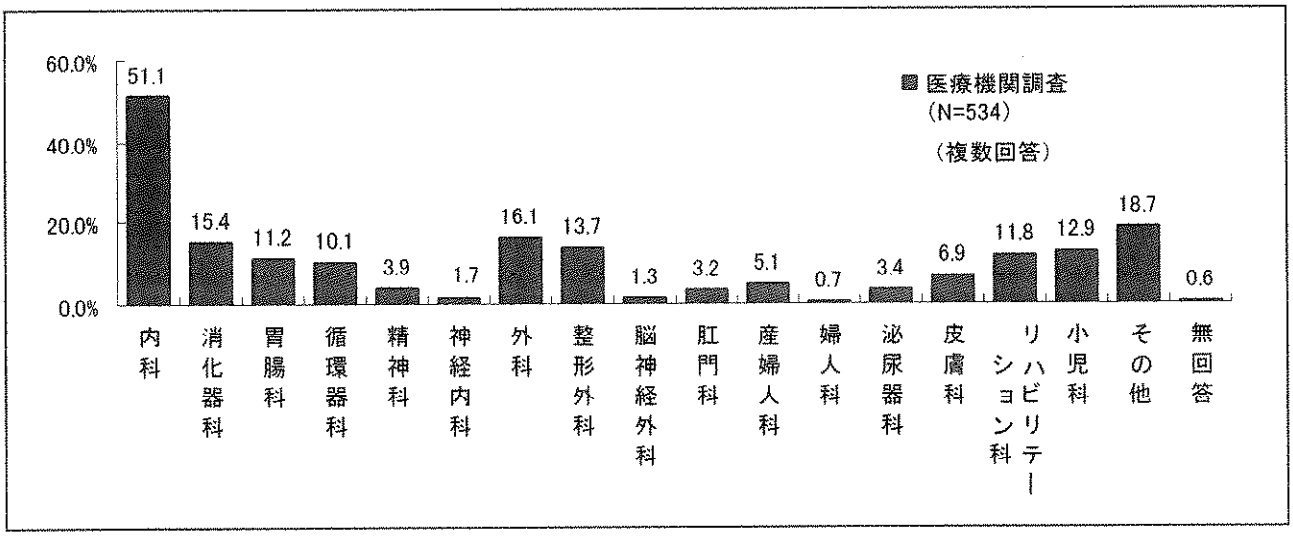
（3）記入医師の性別



（4）医師の経験年数



（5）医師の担当診療科目

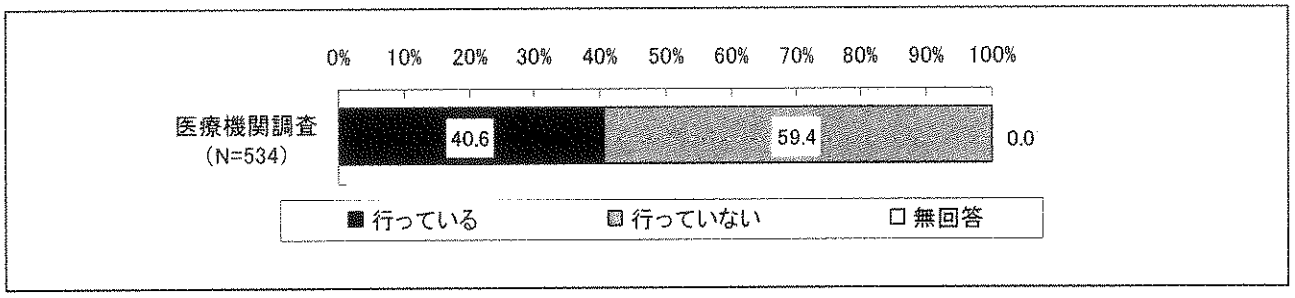


※以下、【医】は医療機関用調査の設問、【も】はものわすれ外来協力医療機関用調査の設問を表す。

２．　認知症の診療体制

（1）認知症の診療状況

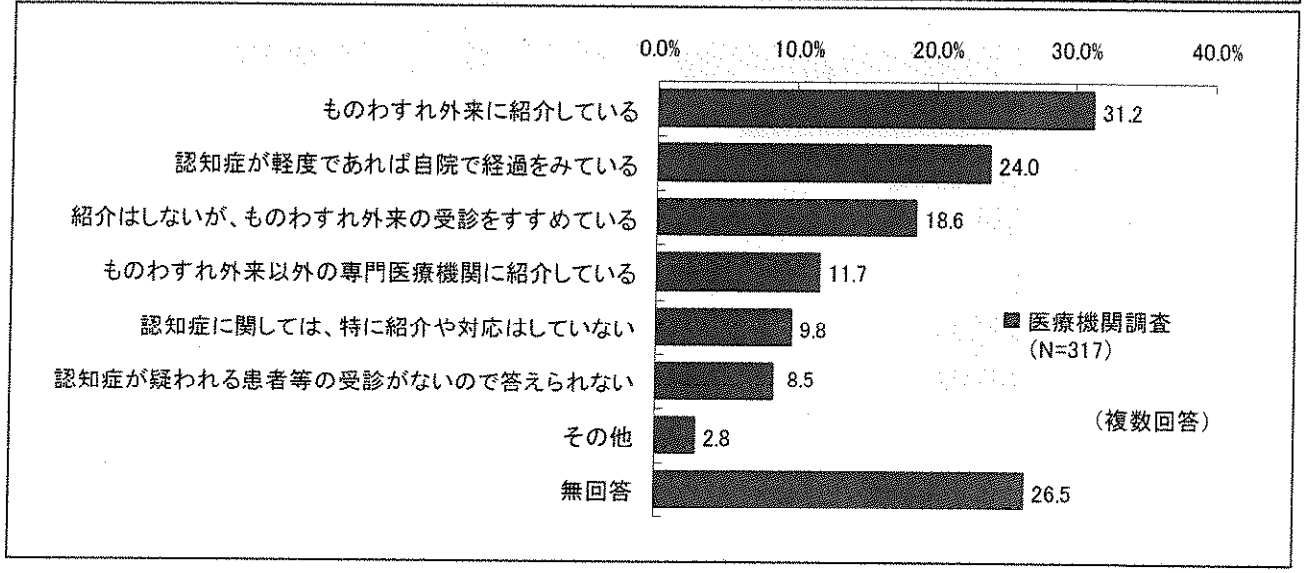
貴医療機関で、認知症の診断・治療を行っていますか。（いずれか一つに○）【医】問１



医療機関における認知症の診断・治療状況は、「行っている」が40.6%、「行っていない」が59.4%となっている。

（2）専門医療への引継ぎ

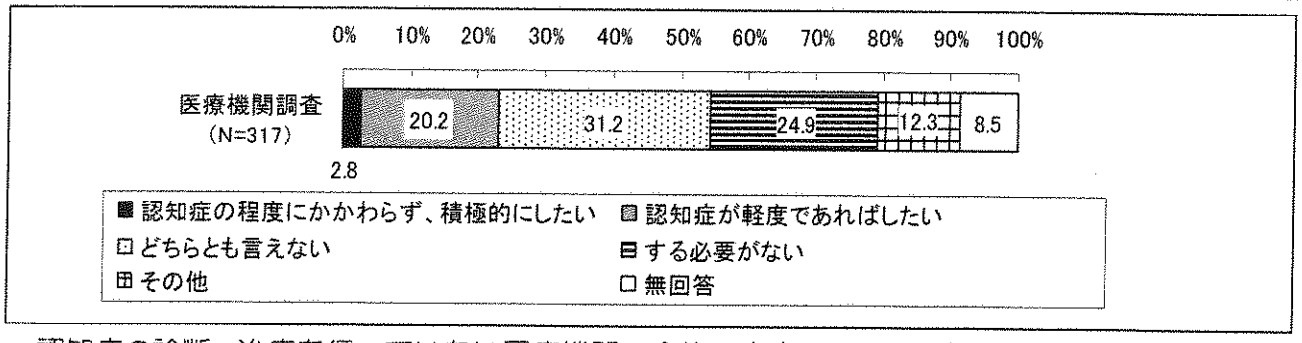
［【医】認知症の診断・診療を行っていない機関へ］
貴医療機関では、認知症の診断・治療希望があった場合、または認知症を合併した身体疾患患者や認知症が疑われる患者に対して、どのように対応していますか。（複数回答可）
【医】問１－１



認知症の診断・治療を行っていない医療機関に、認知症患者への対応を尋ねたところ、「ものわすれ外来に紹介している」が3割強（31.2%）で最も多く、次いで「認知症が軽度であれば自院で経過をみている」（24.0%）、「紹介はしないが、ものわすれ外来の受診をすすめている」（18.6%）となっている。

（3）今後の認知症診療の意向

［【医】認知症の診断・診療を行っていない機関へ］
今後認知症の診断・治療をしたいと考えていますか。（いずれか一つに○）【医】問１－２

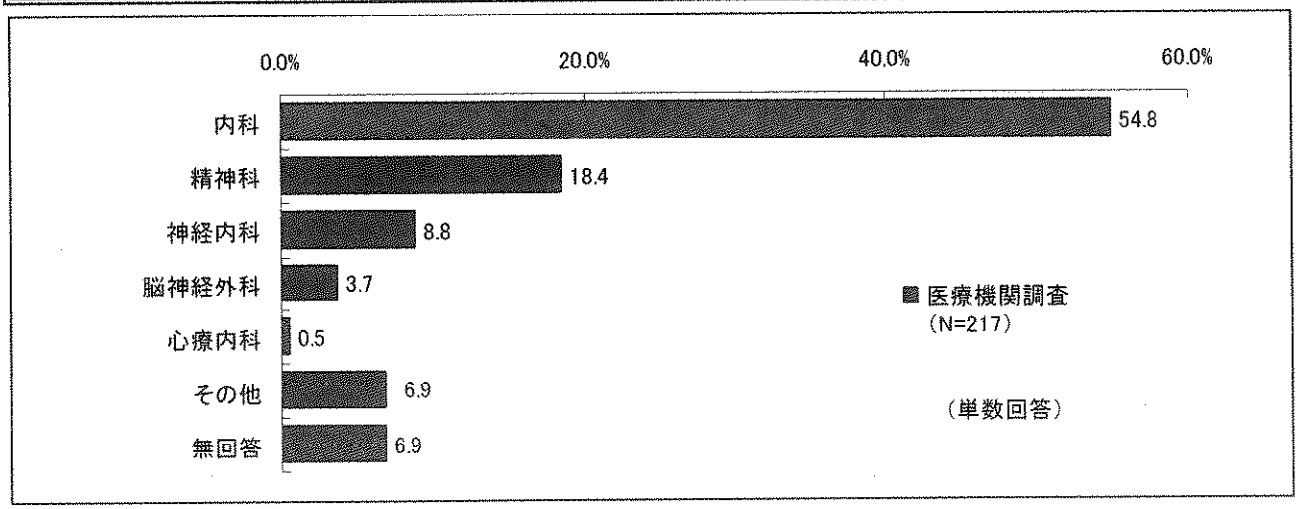


認知症の診断・治療を行っていない医療機関の今後の意向について、「どちらとも言えない」が3割（31.2%）を占めて最も多く、次いで「する必要がない」（24.9%）となっている。

また、認知症の診療意向がある医療機関に着目すると、「認知症の程度にかかわらず、積極的にしたい」は2.8%に留まるが、「認知症が軽度であればしたい」は２割（20.2%）を占めている。

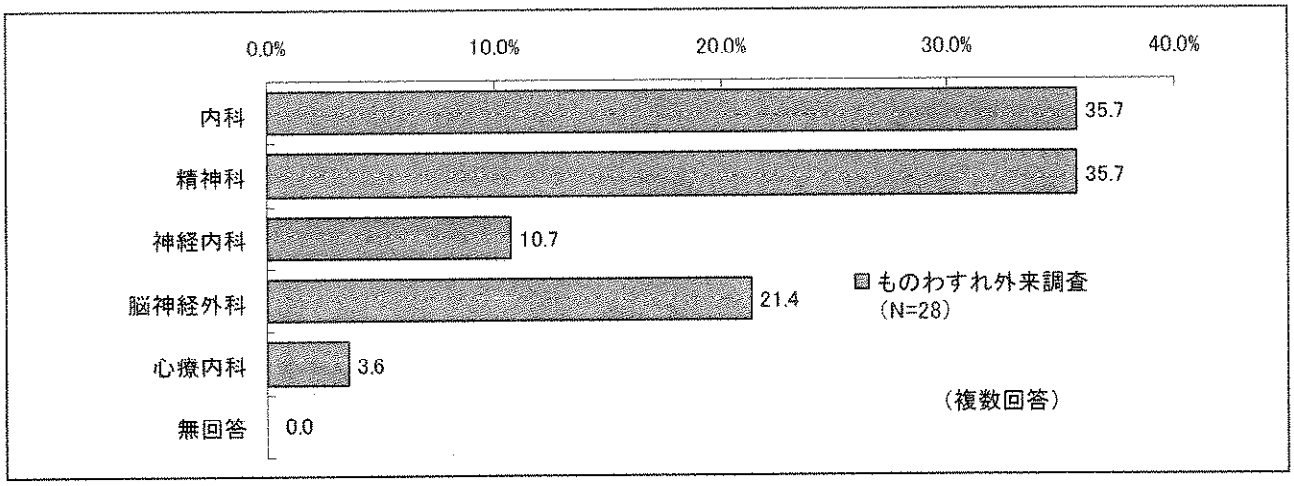
（4）認知症の診療科

［【医】認知症の診断・診療を行っている機関へ］
認知症の診断をするのは主にどの診療科ですか。（いずれか一つに○）【医】問２



認知症の診断・治療をしている医療機関の担当科は、「内科」が半数以上（54.8%）で最も多く、次いで「精神科」（18.4%）、「神経内科」（8.8%）となっている。

ものわすれ外来の診療科（複数回答）【も】基本項目

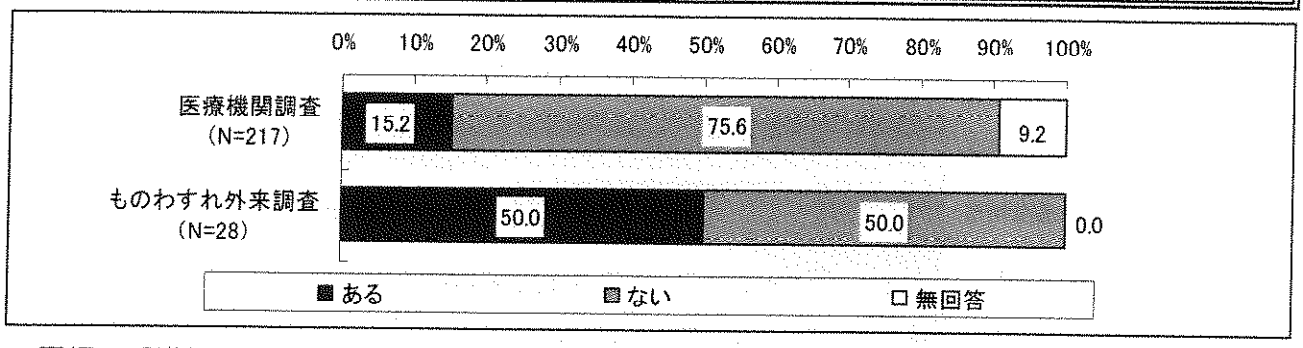


ものわすれ外来の担当科は、「内科」（35.7%）と「精神科」（35.7%）が同率で多い。

（5）専門職の関わり

① 専門職の関わりの有無

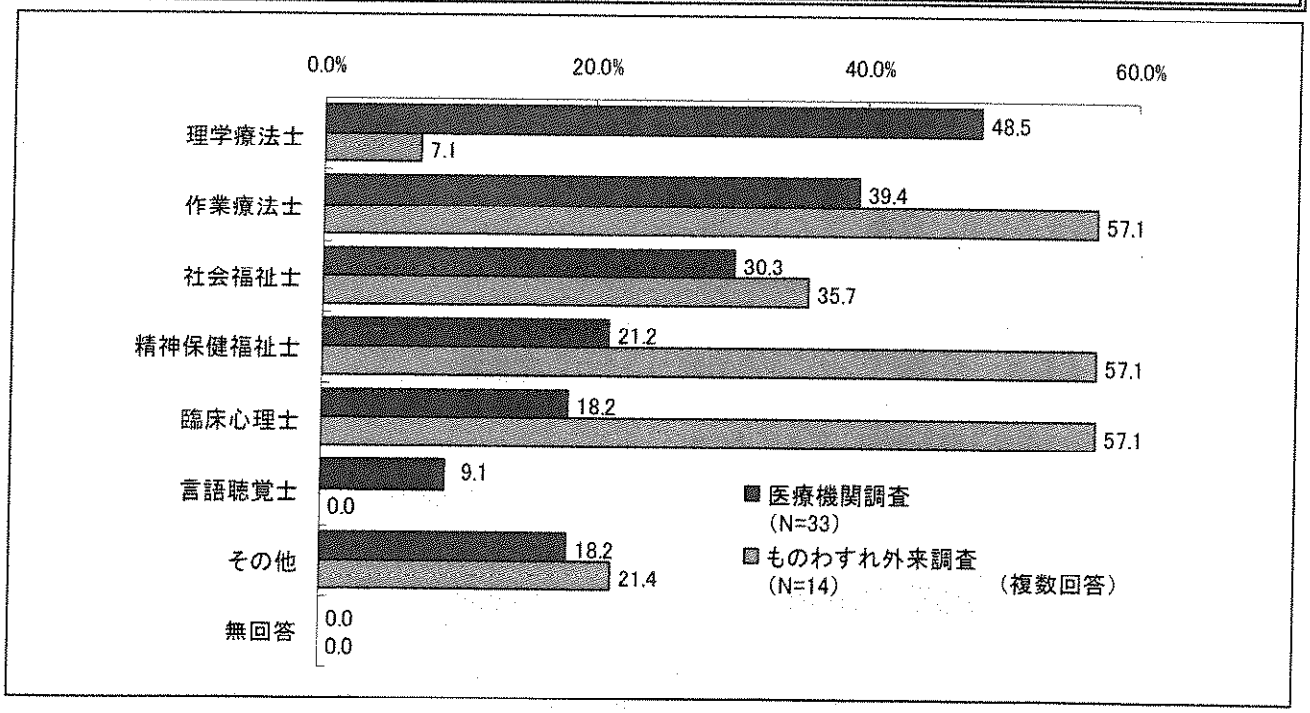
［【医】認知症の診断・診療を行っている機関へ、【も】全機関へ］
認知症患者への対応で、医師・看護師以外の専門職の関わりはありますか。（いずれか一つに○）
【医】問３、【も】問１



医師・看護師以外の専門職の関わりが「ある」の割合は、ものわすれ外来では50.0%を占めており、医療機関では15.2%に留まっている。

② 専門職の職種

［【医・も】専門職の関わりがある機関へ］
それはどのような職種の方ですか。（複数回答可）【医】問３－１、【も】問１－１



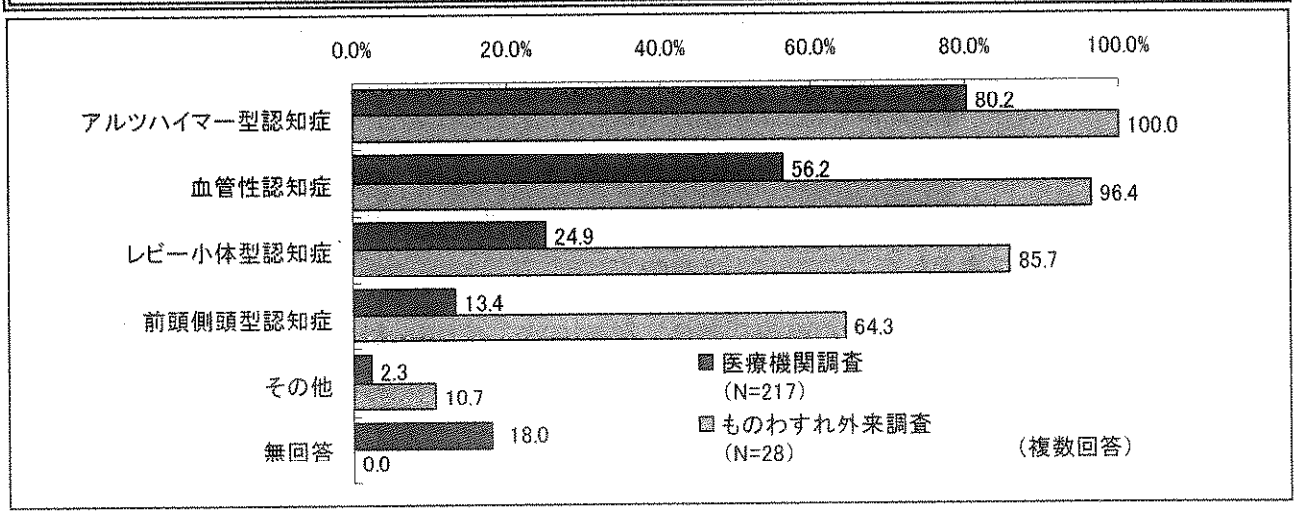
認知症患者に関わりのある医師・看護師以外の専門職の職種については、医療機関では「理学療法士」（48.5%）が最も多く、次いで「作業療法士」（39.4%）、「社会福祉士」（30.3%）となっている。

ものわすれ外来では、「作業療法士」（57.1%）と「精神保健福祉士」（57.1%）、「臨床心理士」（57.1%）が同率で多い。

３．　認知症の診断・治療

（1）診断・治療が可能な認知症の原因疾患

［【医】認知症の診断・診療を行っている機関へ、【も】全機関へ］
下記を原因疾患とする認知症のうち、貴医療機関で診断・治療が可能なものはどれですか。
（複数回答可）【医】問４、【も】問２



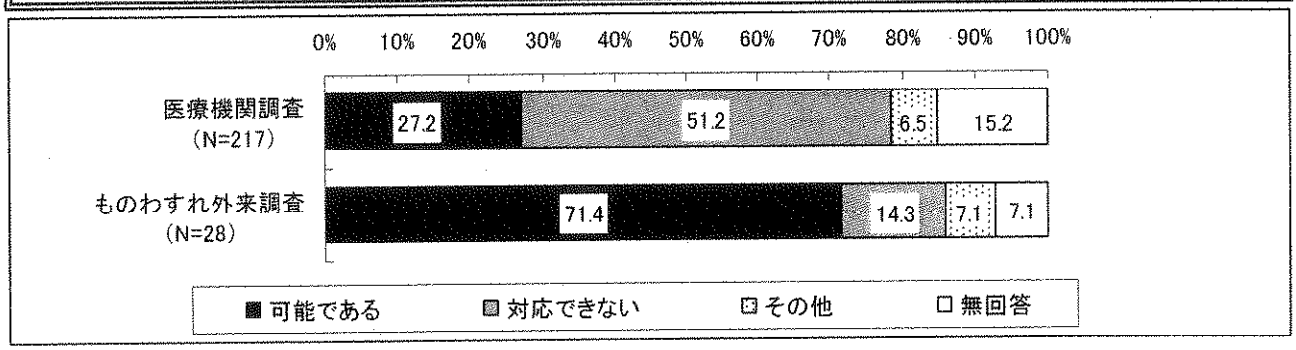
診断・治療が可能な認知症の原因疾患については、医療機関・ものわすれ外来ともに「アルツハイマー型認知症」（医：80.2%、も：100.0%）が最も多く、次いで「血管性認知症」（医：56.2%、も：96.4%）、「レビー小体型認知症」（医：24.9%、も：85.7%）となっている。

また、ものわすれ外来ではどの疾患も６割以上が診断・治療が可能であるが、医療機関はその割合から大きく下回っており、特に「レビー小体型認知症」や「前頭側頭型認知症」は2割前後に留まっている。

（2）若年性認知症の診断・治療

①　若年性認知症の診断・治療の可否

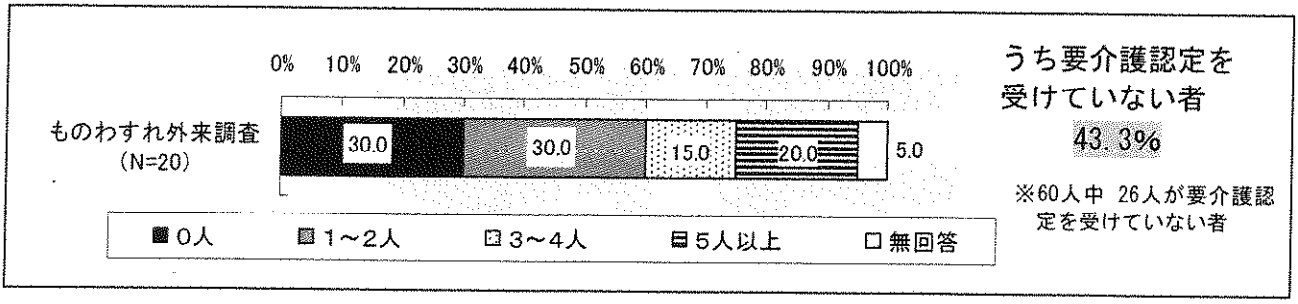
［【医】認知症の診断・診療を行っている機関へ、【も】全機関へ］
若年性認知症（６５歳未満で発症する認知症）の診断・治療は可能ですか。
（いずれか一つに○）【医】問５、【も】問３



若年性認知症の診断・治療の可否について「可能である」の割合は、ものわすれ外来は71.4%であるが、医療機関は27.2%に留まっている。

② 若年性認知症の患者数

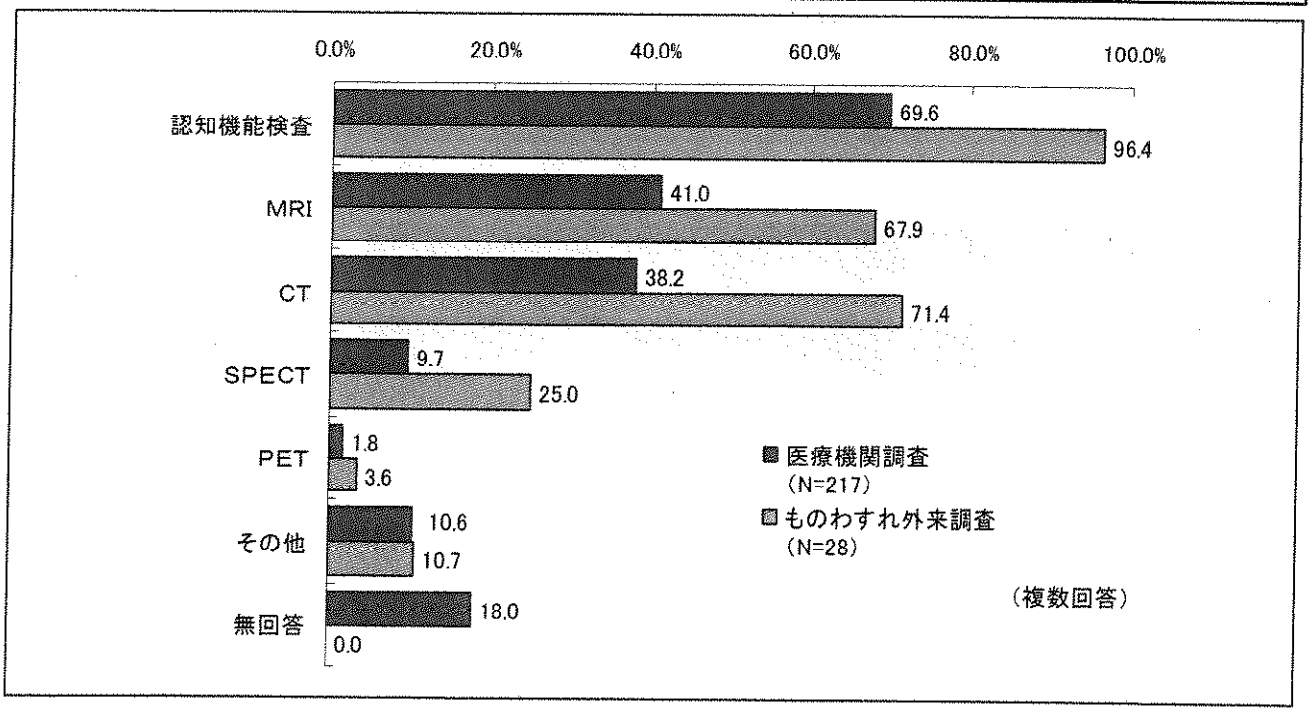
［【も】若年性認知症の診断・治療が可能な機関へ］
貴医療機関で診療をしている若年性認知症患者の数をお答えください。また、そのうち要介護認定を受けていない人の数もお答えください。（数を記入）【も】問３－１



ものわすれ外来の若年性認知症の患者数は、「0人」（患者なし）や「１～２人」が30.0%で多い。また、若年性認知症患者のうち、要介護認定を受けていない方は43.3%である。

（3）検査方法

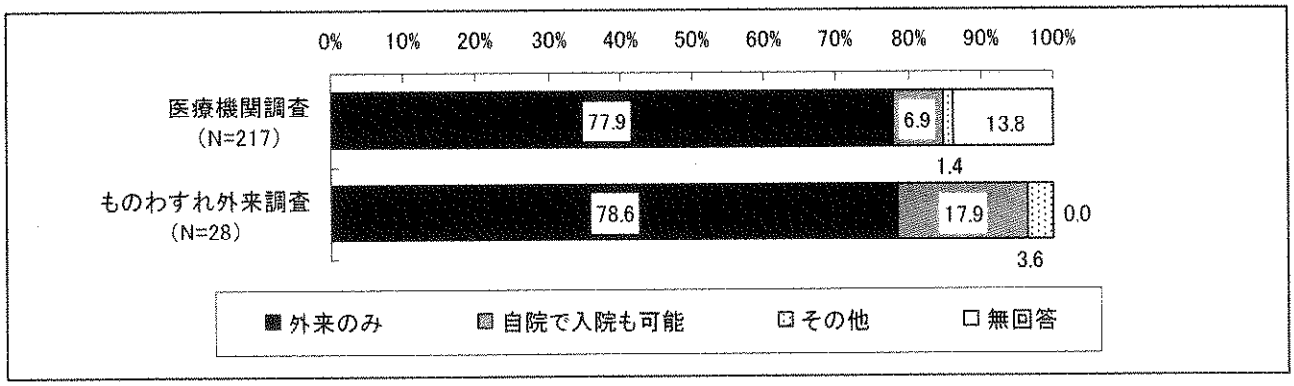
［【医】認知症の診断・診療を行っている機関へ、【も】全機関へ］
貴医療機関では通常どのような検査方法を行っていますか。他の医療機関に検査を依頼する場合も含め、お答えください。（複数回答可）【医】問６、【も】問４



認知症の検査方法は、医療機関・ものわすれ外来ともに「認知機能検査」（医：69.6%、も：96.4%）が最も多い。また、これに次いで「MRI」（医：41.0%、も：67.9%）や「CT」（医：38.2%、71.4%）が第２・３位にあがっている。

（4）認知症の入院受け入れ

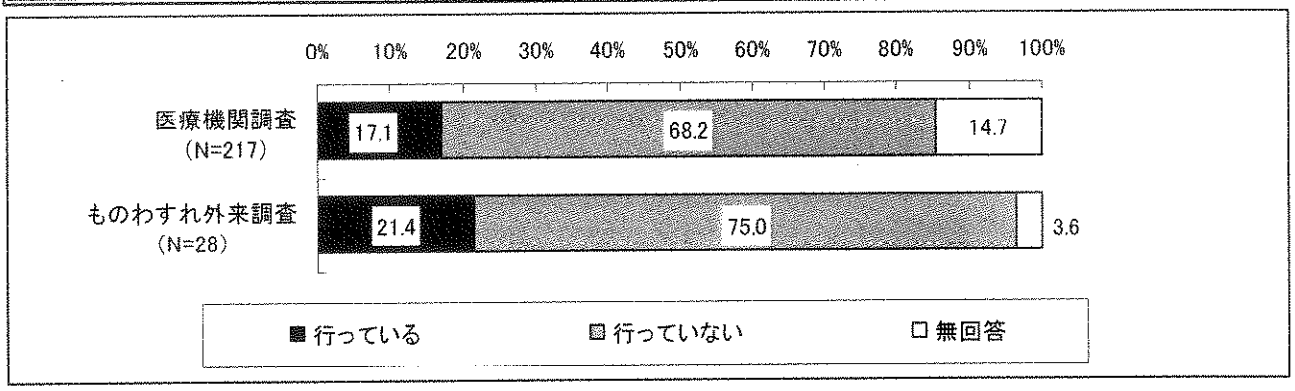
［【医】認知症の診断・診療を行っている機関へ、【も】全機関へ］
認知症患者の治療はどのようにしていますか。（いずれか一つに○）【医】問７、【も】問５



認知症の入院受け入れについては、医療機関・ものわすれ外来ともに「外来のみ」が8割弱（医：77.9%、も：78.6%）を占めている。また、ものわすれ外来では「自院で入院も可能」が17.9%であり、医療機関に比べて割合が高い。

（5）認知症の訪問診療

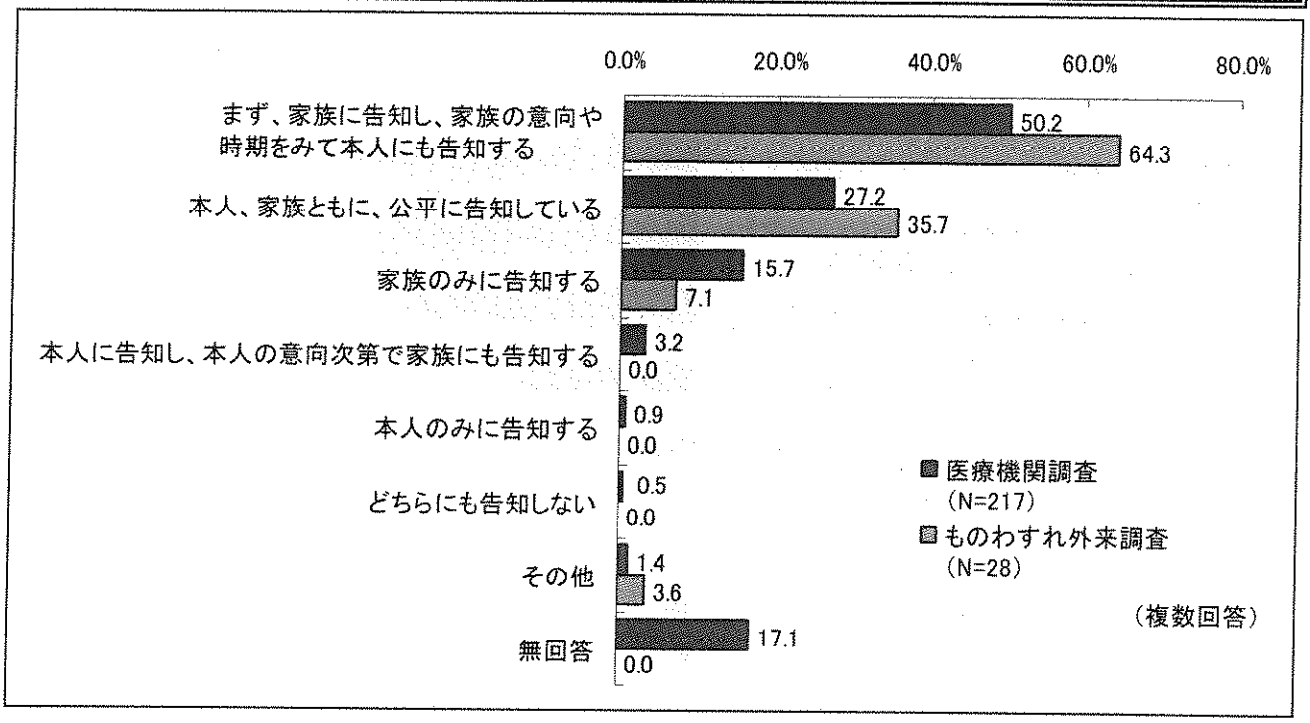
［【医】認知症の診断・診療を行っている機関へ、【も】全機関へ］
認知症の治療を主な目的とした訪問診療を行っていますか。（いずれか一つに○）
【医】問８、【も】問６



認知症の訪問診療を「行っている」割合は、医療機関で17.1%、ものわすれ外来で21.4%となっている。

（6）認知症診断結果の告知

［【医】認知症の診断・診療を行っている機関へ、【も】全機関へ］
認知症の診断を認知症患者本人や家族に告知していますか。（複数回答可）
【医】問９、【も】問７

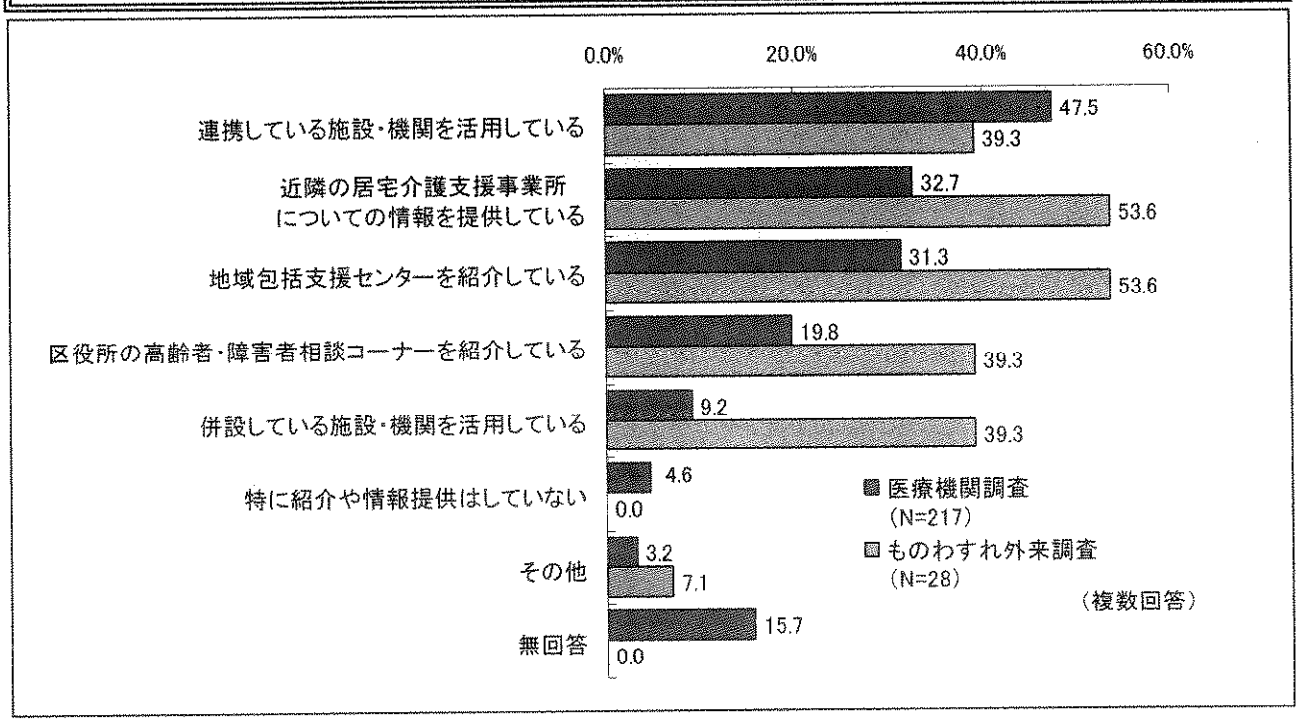


認知症診断結果の告知については、医療機関・ものわすれ外来ともに「まず、家族に告知し、家族の意向や時期をみて本人にも告知する」（医：50.2%、も：64.3%）が最も多く、次いで「本人、家族ともに、公平に告知している」（医：27.2%、も：35.7%）、「家族のみに告知する」（医：15.7%、も：7.1%）となっている。

４．　介護保険等との連携

（1）介護保険サービス等の紹介

［【医】認知症の診断・診療を行っている機関へ、【も】全機関へ］
診断の結果、介護保険サービス等につなぐ必要があると判断されたとき、どのように対応していますか。（複数回答可）【医】問１０、【も】問８

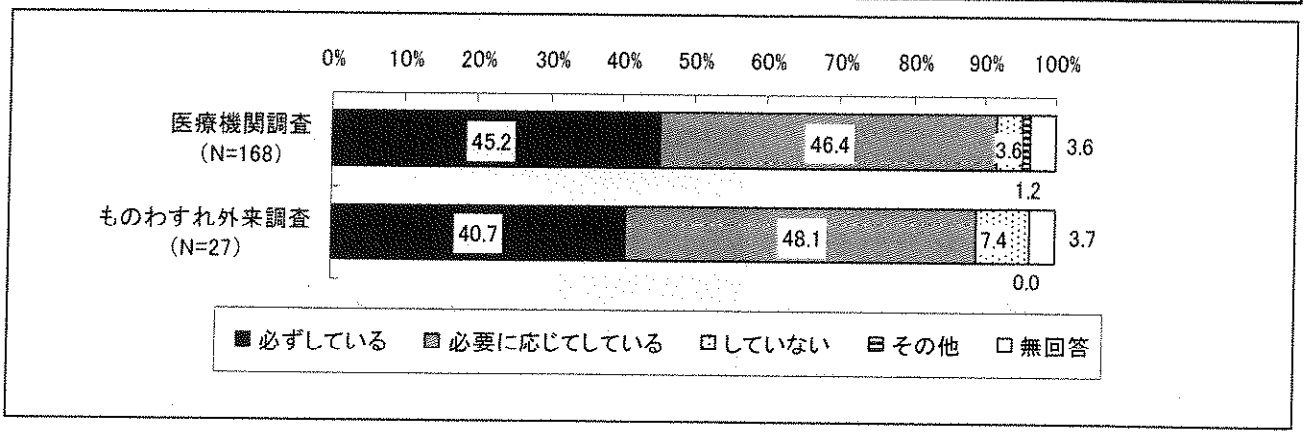


介護保険サービス等の紹介について、医療機関は「連携している施設・機関を活用している」（47.5%）が最も多く、次いで「近隣の居宅介護支援事業所についての情報を提供している」（32.7%）、「地域包括支援センターを紹介している」（31.3%）となっている。

ものわすれ外来では「近隣の居宅介護支援事業所についての情報を提供している」（53.6%）や「地域包括支援センターを紹介している」（53.6%）が同率で多い。

（2）診断結果等の情報提供

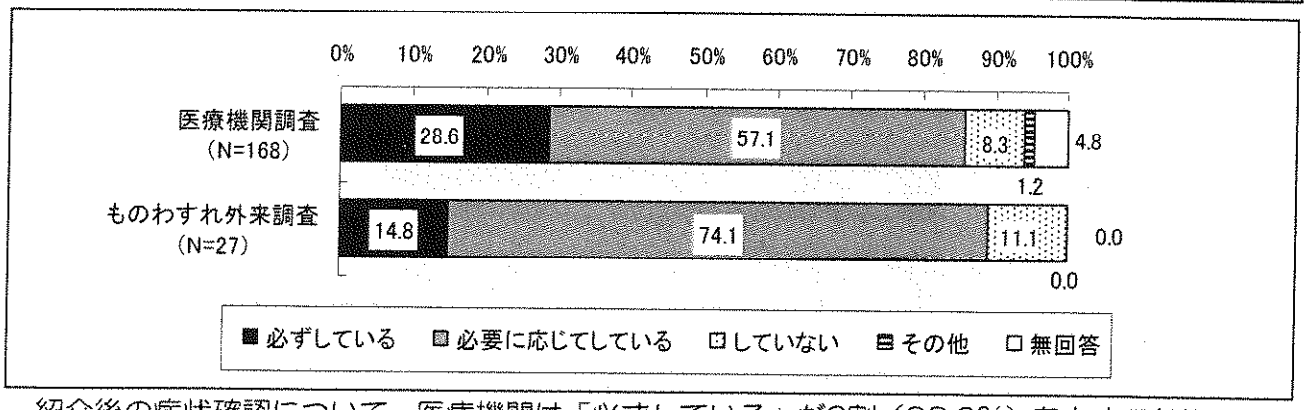
［【医・も】介護保険サービス等の紹介を行っている機関へ］
介護保険サービス等を紹介する際、紹介先に診断結果等を情報提供していますか。
（いずれか一つに○）【医】問１０－１、【も】問８－１



紹介先への診断結果等の情報提供について、「必ずしている」の割合は、医療機関：45.2%、ものわすれ外来：40.7%となっている。また、「必要に応じてしている」の割合も、医療機関：46.4%、ものわすれ外来：48.1%であり、これらをあわせると医療機関・ものわすれ外来ともに9割前後（医：91.6%、も：88.8%）が情報提供を行っている。

（3）紹介後の病状確認

［【医・も】介護保険サービス等の紹介を行っている機関へ］
介護保険サービス等に紹介した後、定期的にその後の病状等の確認をしていますか。
（いずれか一つに○）【医】問１０－２、【も】問８－２

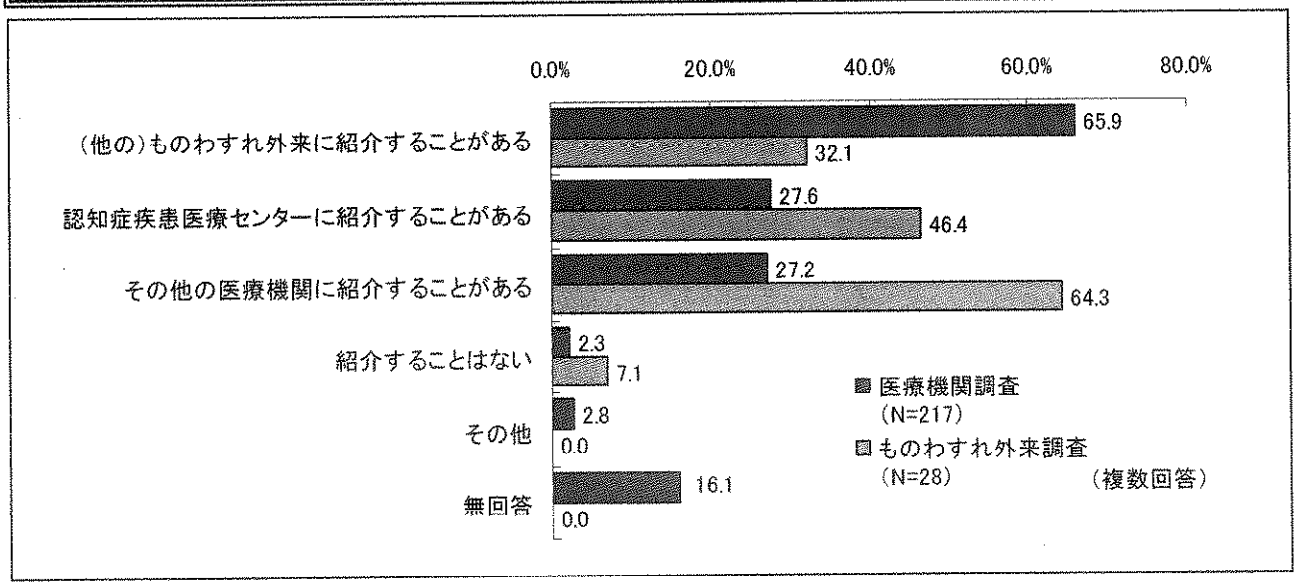


紹介後の病状確認について、医療機関は「必ずしている」が3割（28.6%）を占めており、ものわすれ外来の14.8%に比べて割合が高い。一方、ものわすれ外来では「必要に応じてしている」が74.1%を占めており、「必ずしている」「必要に応じてしている」をあわせると、医療機関・ものわすれ外来ともに9割弱（医：85.7%、も：88.9%）が病状確認を行っている。

５．他医療機関との連携

（1）他医療機関の紹介

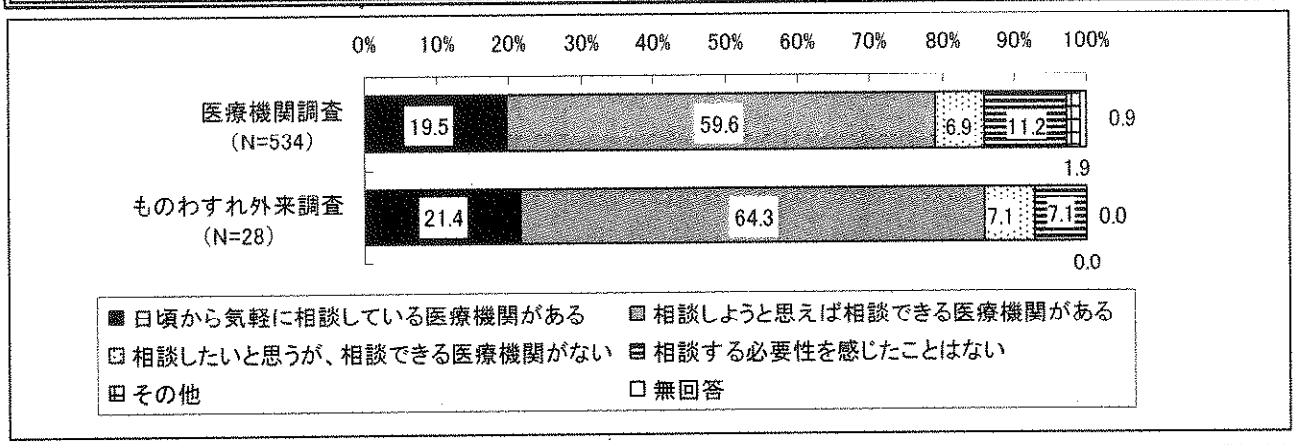
［【医】認知症の診断・診療を行っている機関へ、【も】全機関へ］
他の医療機関を紹介することがありますか。（複数回答可）【医】問１１、【も】問９



他医療機関の紹介について、医療機関は「ものわすれ外来に紹介することがある」が７割弱（65.9%）で最も多く、ものわすれ外来は「その他の医療機関に紹介することがある」が6割強（64.3%）で最も多い。

（2）相談できる医療機関

認知症の診断・治療等に関して、相談できる医療機関がありますか。（いずれか一つに○）
【医】問１２、【も】問１０

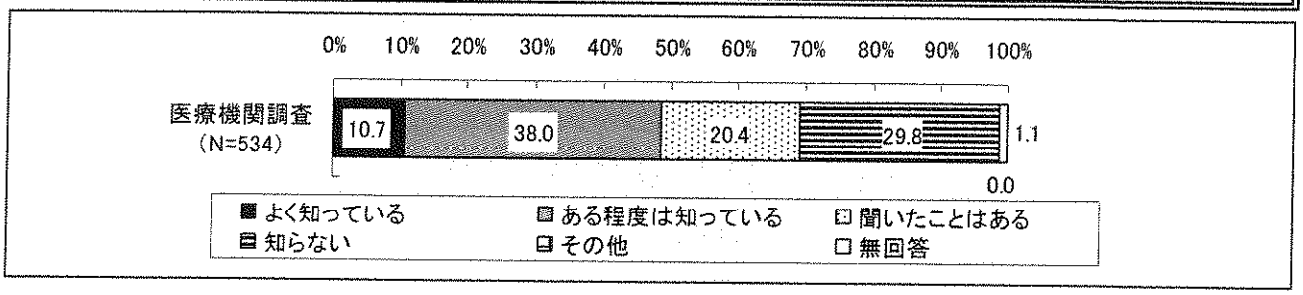


認知症の診断・治療等に関して相談できる医療機関は、医療機関・ものわすれ外来ともに「相談しようと思えば相談できる医療機関がある」が過半数（医：59.6%、も：64.3%）を占めて最も多く、次いで「日頃から気軽に相談している医療機関がある」（医：19.5%、も：21.4%）となっている。また、「相談したいと思うが、相談できる医療機関がない」の割合は、医療機関・ものわすれ外来ともに7%程度となっている。

６．　軽度認知障害（MCI）・専門機関の認知度

（1）軽度認知障害（MCI）の認知度

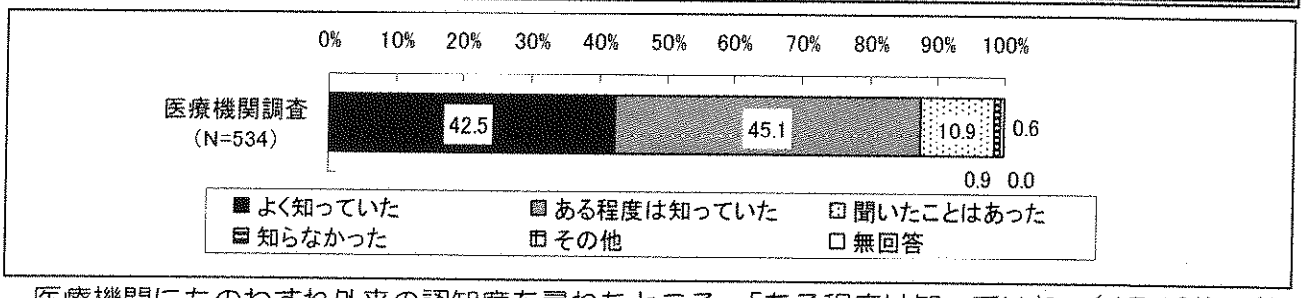
軽度認知障害(ＭＣＩ：mild cognitive impairment)について知っていますか。
（いずれか一つに○）【医】問１３



医療機関に対して軽度認知障害（MCI）の認知度を尋ねたところ、「ある程度は知っている」が4割弱（38.0%）で最も多く、これに「よく知っている」（10.7%）をあわせた『知っている』の割合は48.7%となっている。

（2）ものわすれ外来の認知度

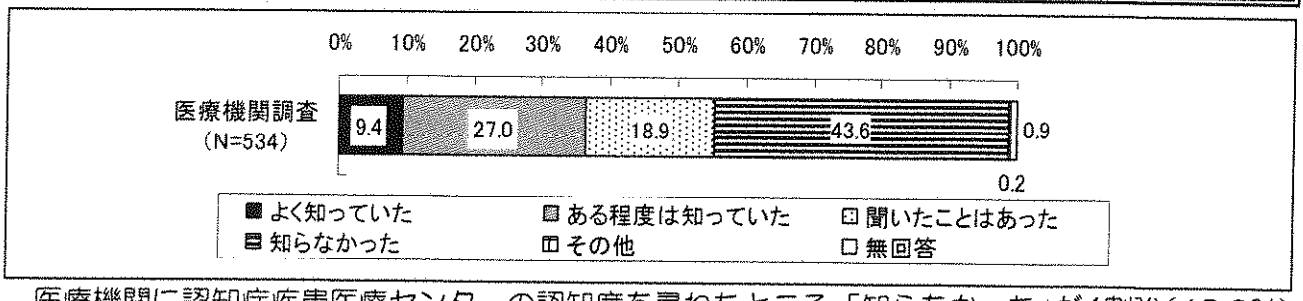
ものわすれ外来について知っていましたか。（いずれか一つに○）【医】問１４



医療機関にものわすれ外来の認知度を尋ねたところ、「ある程度は知っていた」（45.1%）が最も多く、次いで「よく知っていた」（42.5%）となっており、これらをあわせた『知っていた』の割合は87.6%となっている。

（3）認知症疾患医療センターの認知度

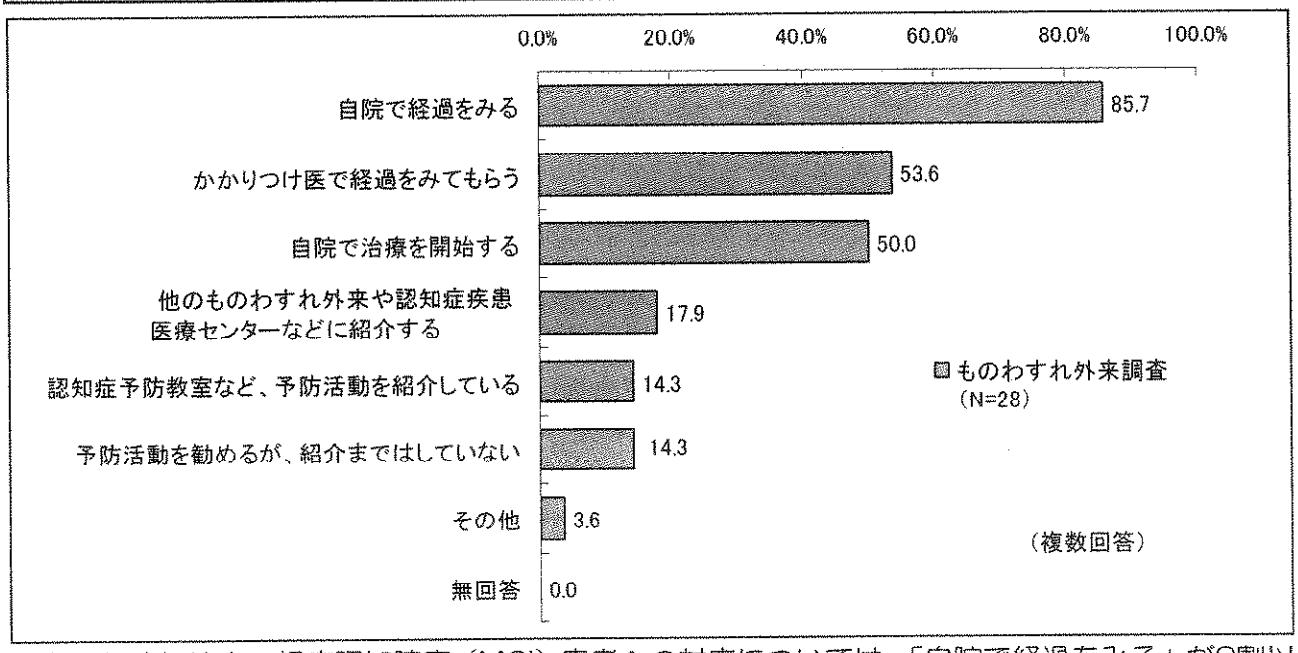
認知症疾患医療センターについて知っていましたか。（いずれか一つに○）【医】問１５



医療機関に認知症疾患医療センターの認知度を尋ねたところ、「知らなかった」が4割強（43.6%）を占めて最も多い。また、「よく知っていた」（9.4%）と「ある程度は知っていた」（27.0%）をあわせた『知っていた』の割合は36.4%である。

７．軽度認知障害（MCI）患者への対応

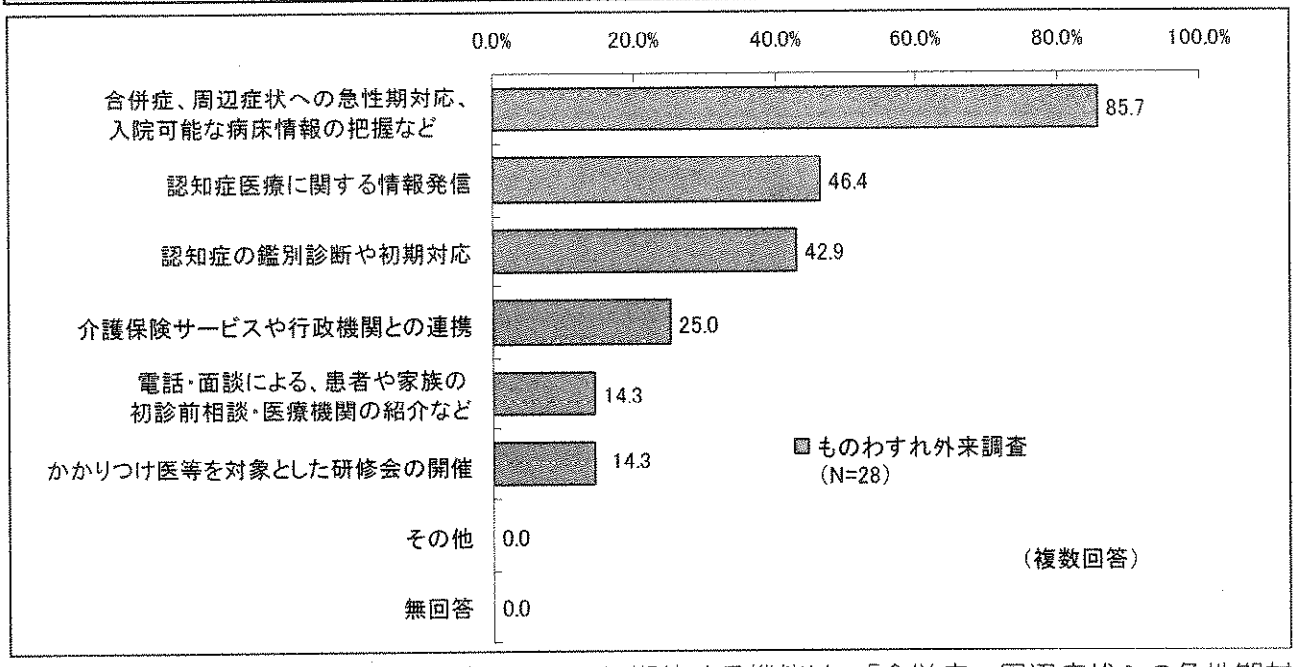
軽度認知障害(ＭＣＩ：mild cognitive impairment)と判断した患者に対しては、主にどのように対応していますか。(複数回答可)【も】問１１



ものわすれ外来の軽度認知障害（MCI）患者への対応については、「自院で経過をみる」が8割以上（85.7%）で最も多く、次いで「かかりつけ医で経過をみてもらう」（53.6%）、「自院で治療を開始する」（50.0%）となっている。

８．認知症疾患医療センターに期待する機能

認知症疾患医療センターの機能として今後期待することはどのようなことですか。
（複数回答可）【も】問１２



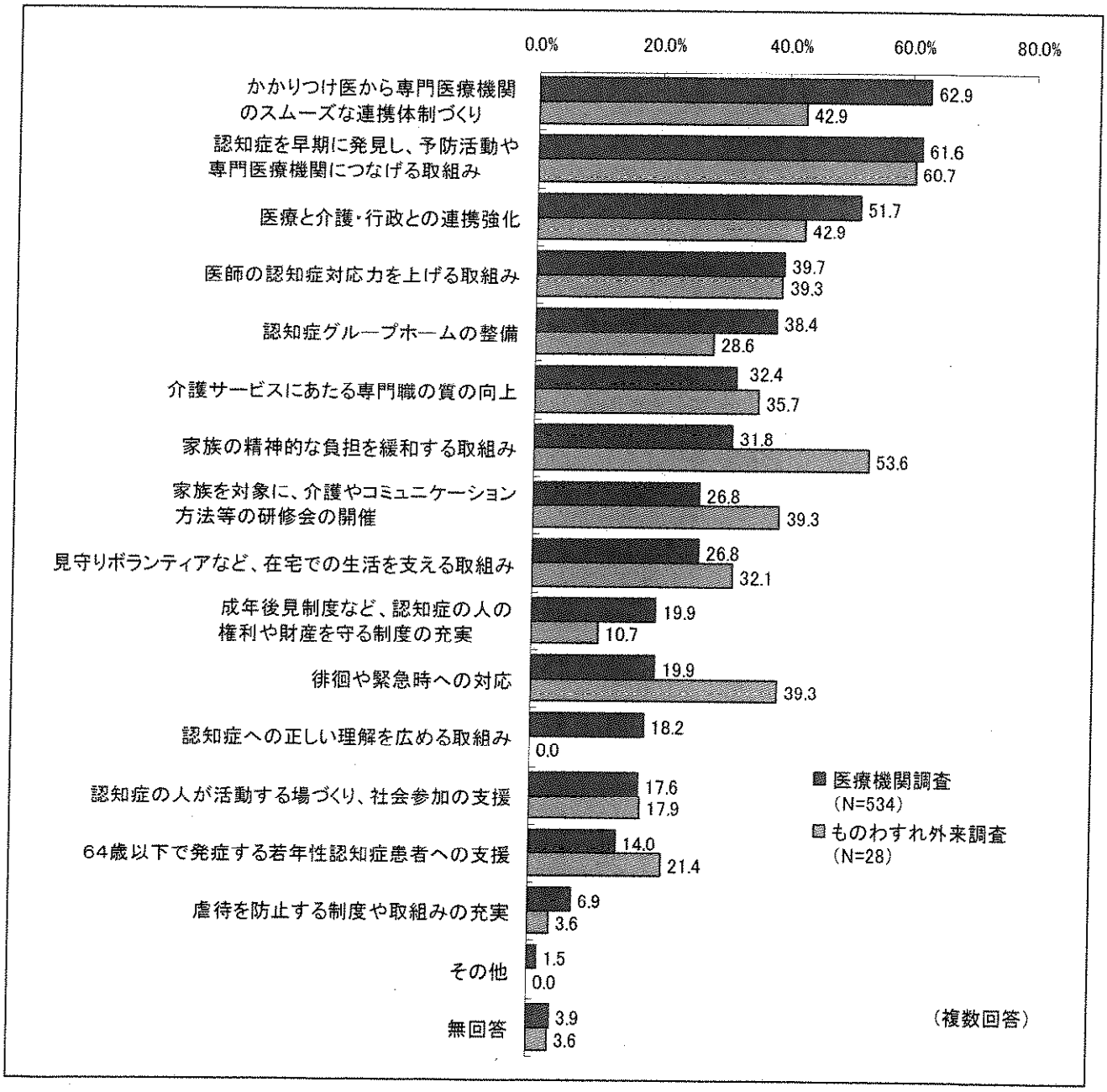
ものわすれ外来が認知症疾患医療センターに期待する機能は、「合併症、周辺症状への急性期対応、入院可能な病床情報の把握など」が9割弱（85.7%）で最も多く、次いで「認知症医療に関する情報発信」（46.4%）、「認知症の鑑別診断や初期対応」（42.9%）となっている。

９．認知症対策の重視度

今後、認知症対策を進めていくうえで、北九州市はどのようなことに重点を置くべきだと考えますか。下の記入欄に最も重点を置くべきと考えるものから順に、５つまで番号をあげてください。【医】問１６、【も】問１３

■複数回答として集計

※第１位～第５位の回答順位の強さを度外視し、設問文を「重点を置くべきと考えるものに５つまで○を付けてください」と読み替えて集計している。



認知症対策として北九州市が重点を置くべきことは、医療機関は「かかりつけ医から専門医療機関のスムーズな連携体制づくり」（62.9%）が最も多く、次いで「認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療機関につなげる取組み」（61.6%）、「医療と介護・行政との連携強化」（51.7%）となっている。

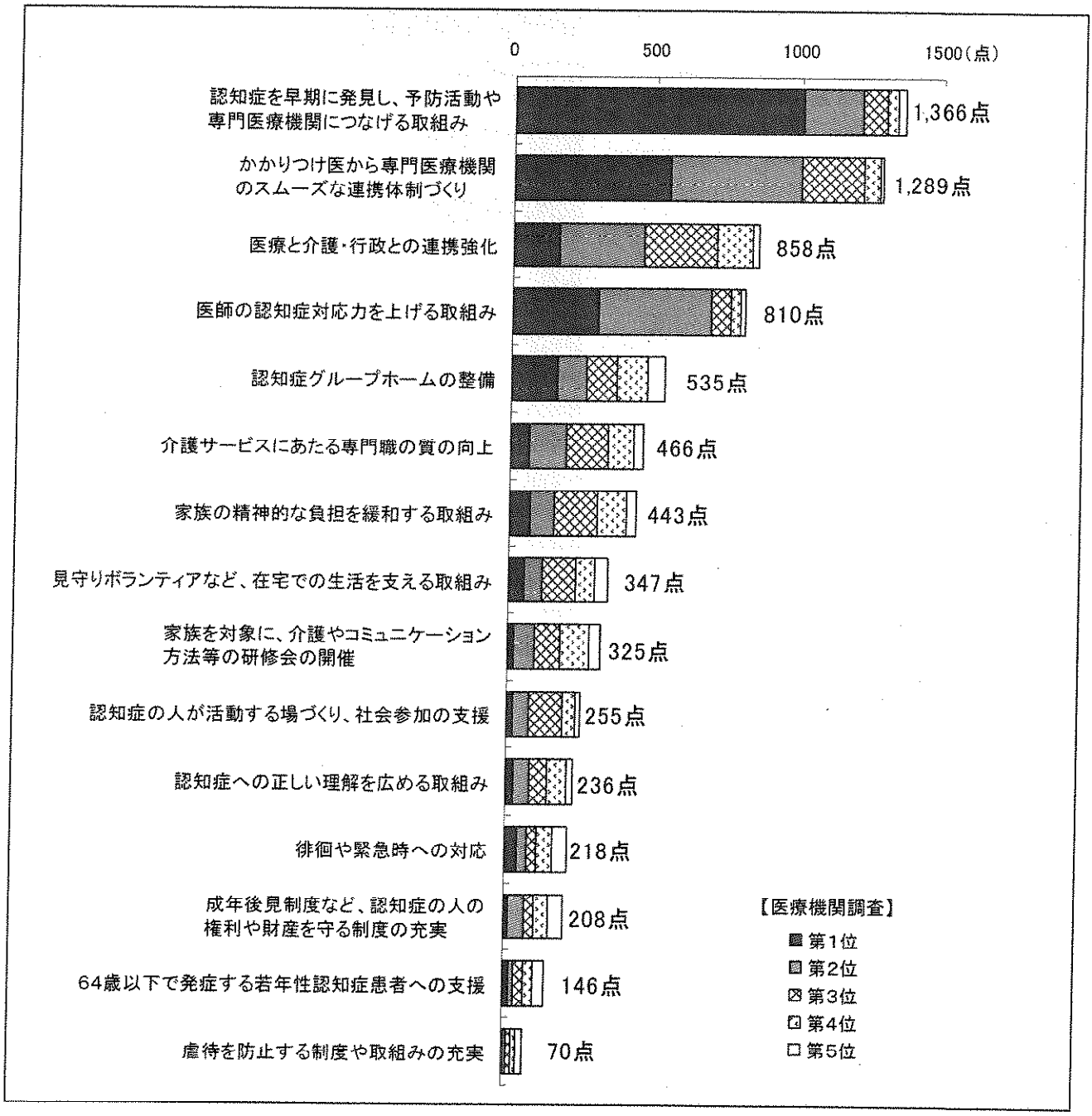
ものわすれ外来は「認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療機関につなげる取り組み」（60.7%）が最も多く、次いで「家族の精神的な負担を緩和する取組み」（53.6%）、「かかりつけ医から専門医療機関のスムーズな連携体制づくり」（42.9%）、「医療と介護・行政との連携強化」（42.9%）となっている。

■重視度

※各選択肢が第1位～第5位に選ばれた度数（ボリューム）に、順位の強さ（第1位＝5点、第2位＝4点、第3位＝3点、第4位＝2点、第5位＝1点）を配点した重視度を算出。

【医療機関調査】

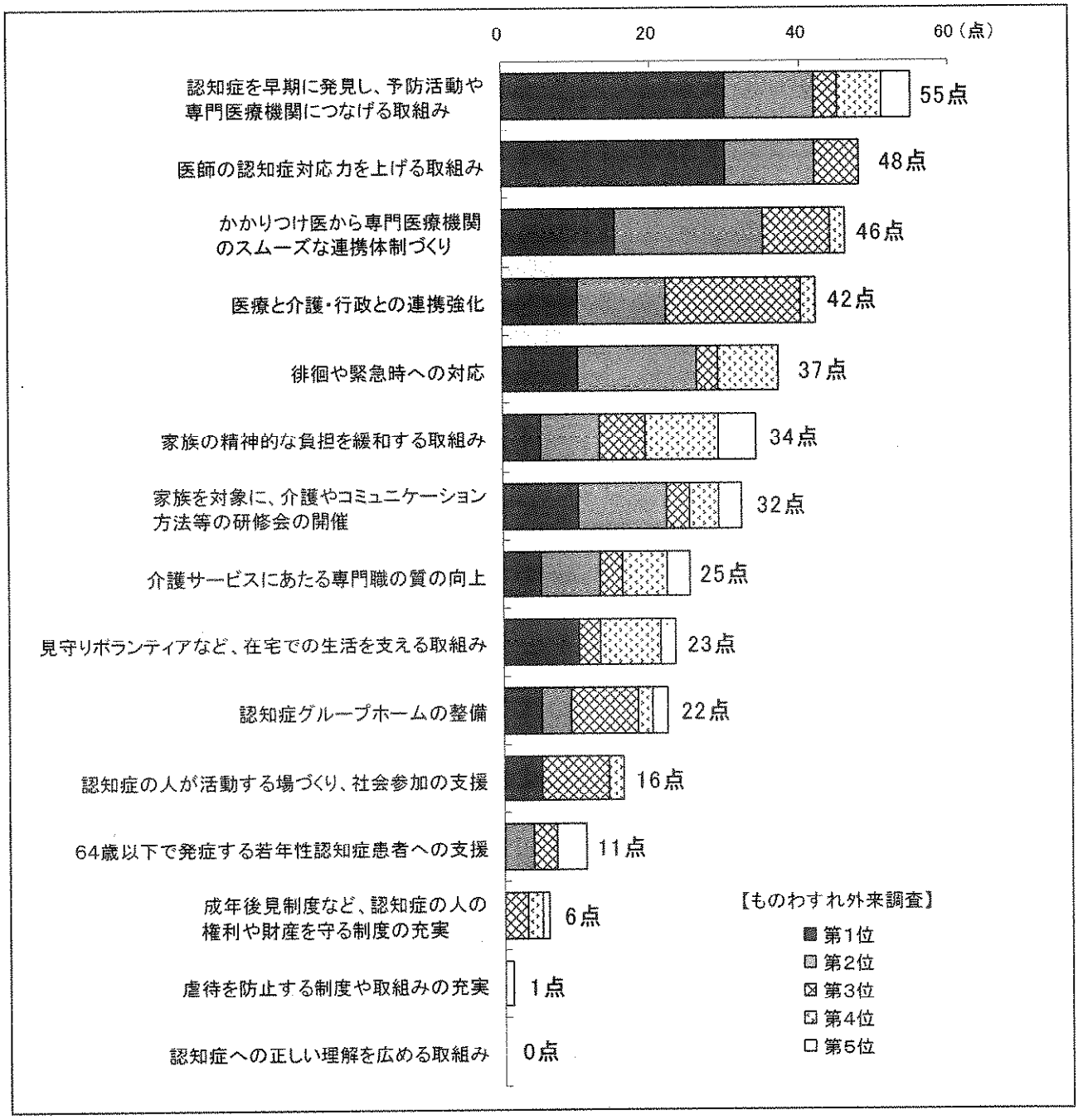
※ここでは2,670点満点中の点数となる。



医療機関について重視度が高いのは「認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療機関につなげる取組み」（1,366点）や「かかりつけ医から専門医療機関のスムーズな連携体制づくり」（1,289点）である。また、これに400点以上の差をあけて「医療と介護・行政との連携強化」（858点）、「医師の認知症対応力を上げる取組み」（810点）が続いている。

【ものわすれ外来調査】

※ここでは140点満点中の点数となる。



ものわすれ外来について重視度が最も高いのは「認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療機関につなげる取組み」（55点）であり、次いで「医師の認知症対応力を上げる取組み」（48点）、「かかりつけ医から専門医療機関のスムーズな連携体制づくり」（46点）となっている。